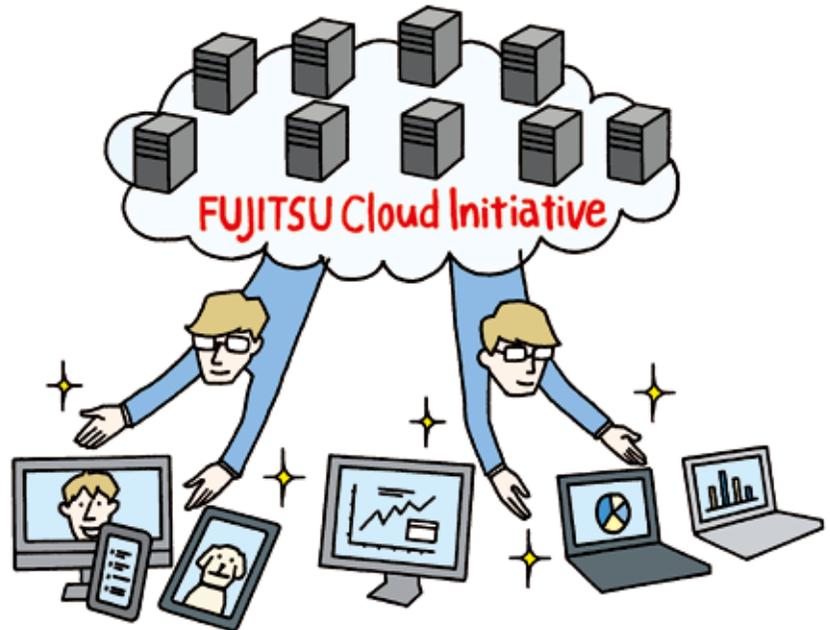


Fujitsu — AT THE HEART of the Human Centric Intelligent Society

ICTの力によって人々が可能性を最大限に発揮してイノベーションを創出し、人にやさしい、豊かな社会が形成される。こうした「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」の実現に向け、富士通はもてる力を結集し、中心的な役割を果たしたいと考えています。

顧客満足度1位

国内の企業をはじめ、官公庁、自治体など公共団体を含む全国1,407の情報システム部門からの回答をもとに、ICT分野における主要製品・サービスの顧客満足度を徹底調査した「日経コンピュータ第17回顧客満足度調査」において、お客様からの高い評価をいただき、「デスクトップPC部門」「ノートPC部門」「PCサーバー部門」「メインフレーム部門」「ストレージ専用装置部門」「ネットワーク機器部門」とハードウェア8部門中6部門で第1位に選ばれました。



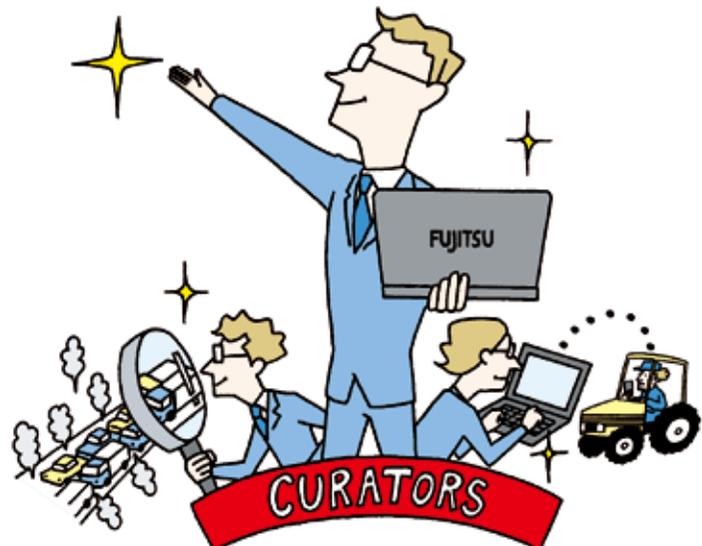
多種多様なクラウドサービスを組み合わせられる クラウドインテグレーション

プライベートクラウドからパブリッククラウド、インテグレーションから IaaS・PaaS・SaaS など全てのクラウド製品・サービスを「FUJITSU Cloud Initiative」として体系づけ、お客様に最適なクラウドサービスを提供しています。日々進化するクラウドサービスの技術や製品の動向に精通する100名のクラウドスペシャリストを核に、2,000のクラウドインテグレーターがお客様システムに最適なクラウドサービスの組み合わせを選択し、迅速で安心なクラウド環境を構築します。



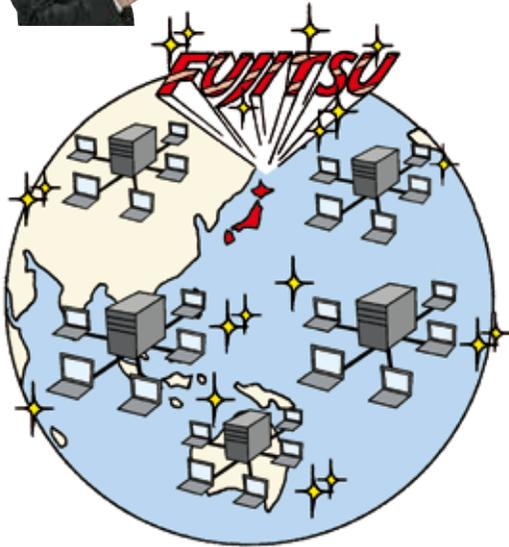
ビッグデータ活用クラウドサービス

ビッグデータ活用クラウドサービスを展開し、データ利用に必要な技術を統合して提供しています。また、この実践で培った技術・ノウハウを、ソフトウェア商品として提供しています。具体的には、農業生産の現場を効率化する「Akisai (秋彩)」や、都市の状態を可視化する「SPATIOWL (スペシオウル)」などのサービス、膨大な情報から有意義な知見を導くデータキュレーションというコンサルティングサービス、企業や組織間の情報利活用場としての「DataPlaza」を通じた、高度な情報利活用サービスの提供を行っています。



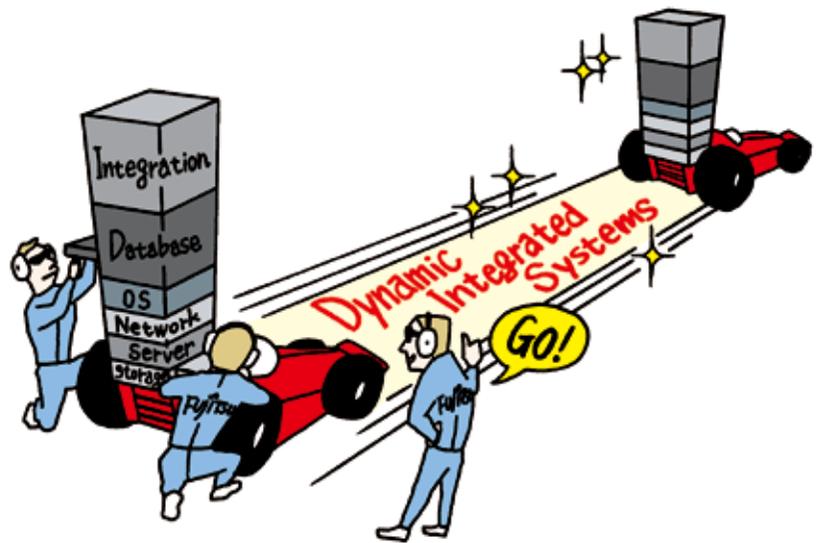
日本発の グローバルICTサービス企業

富士通グループは、国内トップ、世界第4位のICTサービス企業です。国内197社・海外317社の計514社の連結子会社と26社もの持分法適用関連会社で構成されており、連結従業員約17万人が世界100カ国以上でビジネスを展開しています。



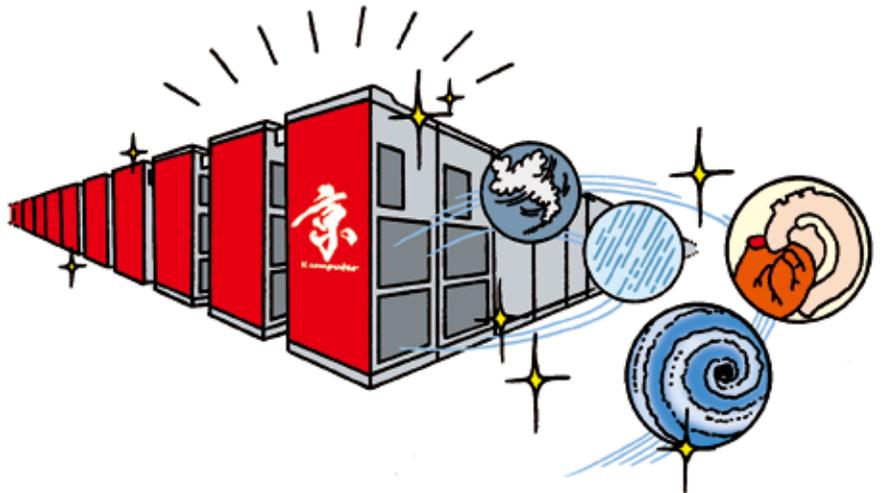
グローバルに展開される 高信頼のデータセンター

富士通は、100カ所を超えるデータセンターを世界各地に展開し、高度なセキュリティが確保されたデータセンター拠点を通じて、地域ごとのニーズに対応した高品質なデータセンターサービスを提供しています。うち、日本、オーストラリア、シンガポール、米国、英国、ドイツのデータセンターには、グローバル共通のクラウドサービス基盤を展開済みで、全体で99.9998%以上の高い稼働率(2012年度実績)を達成しています。さらに、世界中に展開されたサービスデスク拠点では、30カ国語を超える言語でのサポートを提供しています。



垂直統合システム「Dynamic Integrated Systems」

「Dynamic Integrated Systems」は、富士通の垂直統合システム商品の総称で、高性能なハードウェアと、信頼性と運用性に優れたソフトウェアを、当社がこれまで培ってきた高度なインテグレーション技術で最適に統合したものです。「Dynamic Integrated Systems」の価値は、「すぐに使える」ことによるフロント業務の俊敏性強化、迅速なシステム構築と高度な運用保守性によるICT構築・維持運営コストの低減、ならびにハードウェアとソフトウェアを最適に組み合わせることによる高いパフォーマンスです。



スーパーコンピュータ

理化学研究所と富士通が共同開発したスーパーコンピュータ「京」は1秒間に1京回もの浮動小数点演算ができる性能を持ち、2011年6月と11月の2回、スーパーコンピュータ処理性能の世界ランキング1位に輝きました。以来、人の体をまとめてシミュレーションするための心臓の動きの再現や骨格筋のシミュレーションなどの技術開発、過去の竜巻や豪雨を事例とした予測実験、世界最大規模のダークマター(宇宙の構造形成の鍵を握るといわれる、見えない謎の粒子)シミュレーション、次世代の半導体といわれるシリコンナノワイヤの性能向上など、幅広い分野でめざましい成果を出しています。スーパーコンピュータの飛躍的な処理能力の向上により、サイエンス分野はもちろんのこと、ビジネスや社会の課題解決にそのコンピューティングパワーが活用されることへの期待が高まっています。



富士通ならではの「人」「プロセス」「ICT」の一体化

Integrating People, Processes and ICT Like No-one Else

富士通の事業の中核を担うソリューションビジネスって何だろう？
富士通独自の取り組み「フィールド・イノベーション」を用いたソリューションビジネスの一例をご紹介します。



1 富士通の「ソリューションビジネス」とは

富士通のコアビジネスである「テクノロジーソリューション」は、サービス、ソフトウェア、ハードウェアなどが一体となった総合的なサービスをお客様に最適な形で提供します。お客様を直接担当する営業、フィールド・イノベータ(以下、Fler: エフアイヤー)、システムエンジニア(以下、SE)などで構成されたチームと、複数の事業部門が一体となり、お客様の期待に応えるソリューションの提供を行っています。

ソリューションの提供は、すでにでき上がっている製品をそのまま提供するのとは異なり、お客様のビジネスの特徴や方針に合わせて、サービス、ハードウェア、ソフトウェアを組み合わせ、経営の現場で抱えている問題解決や成長に向けた最適な「解」をご提供します。



2 フィールド・イノベーション

フィールド・イノベーションとは、ビジネスの現場に着目し、人とプロセスとICTを“見える化”することで、何が本質的な課題なのかを浮き彫りにする活動です。課題に気づくことで、人の意識を変え、現場の知恵を引き出し、仕事の複雑なプロセスとICTの継続的な改善を行っていける企業体質をお客様と一緒に作り上げていくことを目的としています。こうした活動に結びつけるためにお客様の取り組みを支援するパートナーが、Flerです。富士通の各業務領域で経験を積んだ幹部社

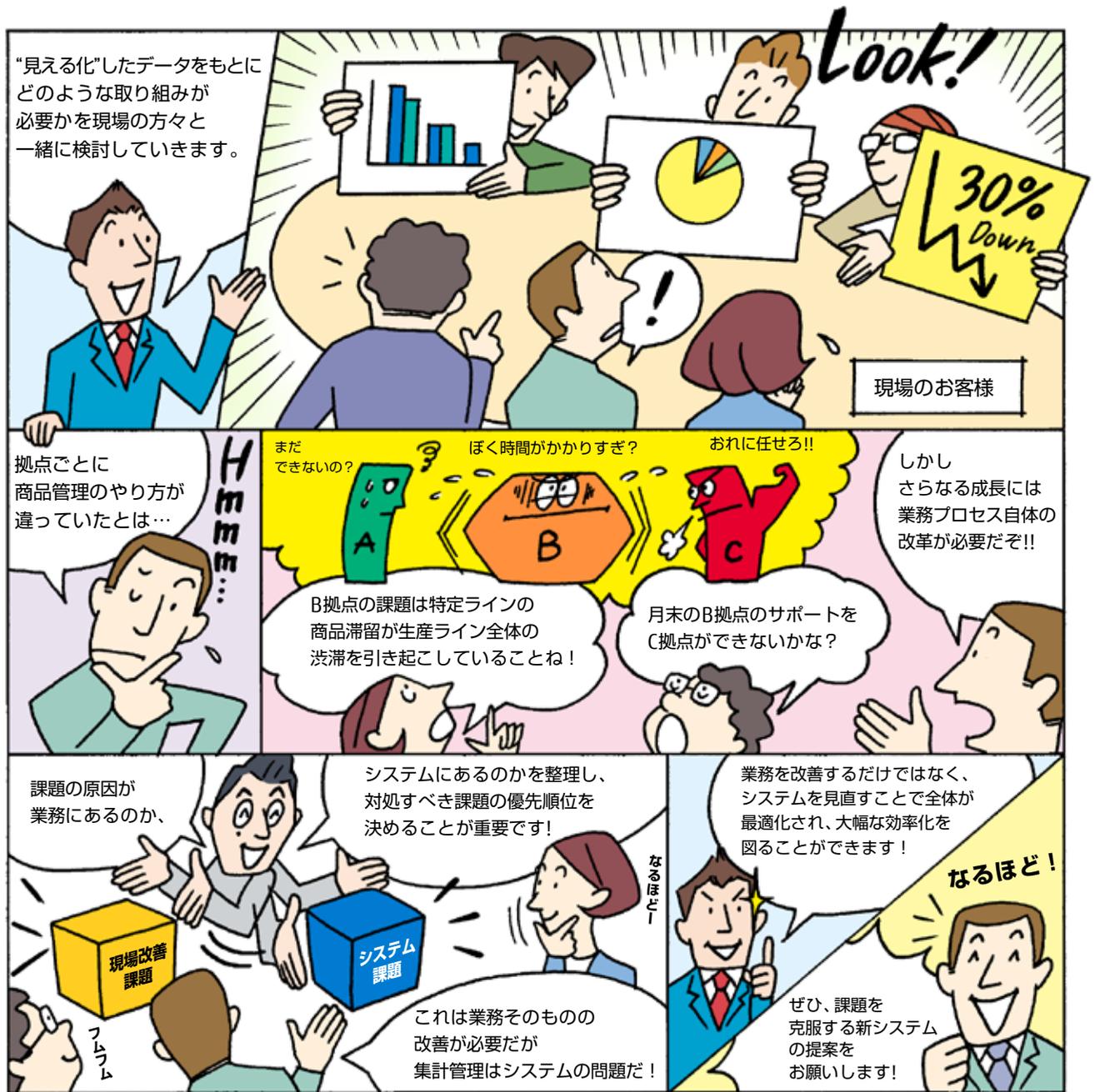
員より選抜され、1年の育成期間を通じて「見える化技術」、「論理整理技術」、「ファシリテーション」などのスキルや、富士通社内でのフィールド・イノベーション実践を通じて実践的能力を身につけた人材です。お客様のビジネス現場に入り、第三者の視点で、エキスパートの立場から、お客様の課題を解決していくサポートをします。



3 フィールド・イノベーションを用いた現場の課題発掘

フィールド・イノベーション活動においては、様々な手法を用いて「プロセスの見える化」「人の意識の見える化」「ICTの見える化」を行っています。その一つとして取り入れているのが、Flerがお客様のビジネスの現場に入って行う「ビジネス・フィールドワーク」です。インタビューやアンケートを行い現場の声を直接抽出するだけでなく、観察対象者に影のように寄り添うシャドーイングという方法を用いて、日常行動に関する詳細な記録をつけます。また、デジタルカメラやICレコーダーで採取した生データを分析するなどして、何にどれだけの時間がかかっているのか、どこに何回の移動が発生しているのか

などの定量的な業務実態を把握することで、業務の流れと仕事のやり方を明らかにし、現場の個人々が「当然すべきこと」と思い込んでいた業務上の無駄といった数々の気づきや、課題の整理を第三者視点でお手伝いします。お客様の反応は様々です。「やり取りする他部門の業務がわかるとむしろ自分の課題が気になるようになった」「数値やフローで、業務の実態を見せられると正直、皆で何とかしようという気になった」「同じような問題が他の現場でも起こっているのではないかなど、業務改善に向けた課題が浮き彫りになり、また、フィールド・イノベーションの活動範囲も広がっていきます。



4 システム提案・構築

フィールド・イノベーションを実施したことにより見える化された事実は、多種多様で、必ずしも最善の解決策がICTを用いることとは限りません。分担が不明確な業務や無駄な業務フローの存在、収集や管理ができていないデータの存在など、浮き彫りとなった課題について、役割の見直しやスキルの向上、現場改善で解決できる課題なのか、システムに関わる課題なのかなど、お客様と一緒に各課題の全体体系とその取り組み優先度を整理します。そして、現場改善課題は、Flerがお客様をサポートしながら、継続して改善活動を行っていきます。

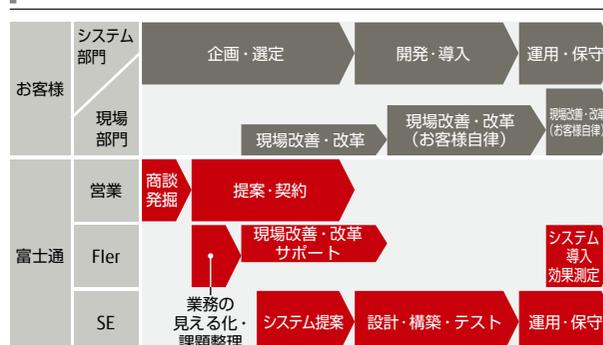
一方、システム課題と結論づけられた課題については、お客様のご要望に応じてフィールド・イノベーション活動によって見えてきた様々な課題を解決する適切なご提案を行います。システム構築のフェーズでは、システムの要件定義やプロジェクト計画に基づき、プロジェクトの予算、納期、品質の管理を行いながら、契約で定めた内容のシステムを作り上げていきます。納品後は、きちんと契約通りのシステムができているか、お客様による稼働テストを経て、検収されます。



5 システム導入までの道のり

システム導入されるまでには、様々なプロセスがあります。富士通では、お客様のICTシステムの導入プロセスである「企画・選定」「開発・導入」「運用・保守」に合わせて、営業、SE、Flerの作業フェーズがあります。管理システム上で営業担当者が進捗管理を行い、担当SEやFlerを含め、関係者間で常に最新の商談状況を確認することができます。また、これらのプロセスを着実に実践し、繰り返すことで、お客様の満足度向上とビジネスの拡大を図っています。

FI活動を活用したシステム導入工程





6 運用・保守そして

システムが無事お客様によって検収された後は、安定したシステムの稼働を維持するために、富士通は運用と保守サービスの提供を行います。また、稼働後は、お客様のご要望に応じて、システム導入効果を測定し、想定していた効果が十分引き出せているか確認します。阻害要因がある場合には、さらなる改善提案、活用支援を行います。

フィールド・イノベーションの意義は、ICTシステムの改善で終わりにせず、「人」「プロセス」「ICT」一体の改革をお客様トップの意思のもと継続していくことで、自ら革新し続ける

強い企業・組織体を作り上げることです。一つの成果にとどまらず、継続的な改革を推進する風土を作り、施策実現を続けることによって、自らを革新していく企業体質を養うお手伝いをします。

富士通は、進化するICTを単なる経営の効率化のための道具ではなく、より経営に直結し、付加価値を生み出すものとして活用し、ソリューションの提供を通じてお客様のビジネスの発展、そして豊かな社会の実現にお客様とともに、貢献していきたいと考えています。

shaping tomorrow with you

ブランドプロミスとは、お客様へどのような価値を提供し、
お客様へ何を約束するかを表現したものです。

富士通グループのブランドプロミス「shaping tomorrow with you」には、
お客様とともにビジネスを推進し、ICTの力でより豊かな社会を実現していく
という想いが込められています。

現在、約17万人の富士通グループの社員が100カ国以上で、
お客様をサポートしています。今後も富士通グループは、
日本に軸足を置いた真のグローバルICT企業として、
あらゆる事業領域でお客様への約束「shaping tomorrow with you」を実現し、
より一層、魅力ある会社を目指します。

富士通グループは、2009年12月に国連が提唱するグローバル・コンパクトに参加し、グローバルな観点からCSR活動を強化しています。

富士通グループは、グローバル・コンパクトが掲げる10原則に基づき、グローバルな視点からCSR活動に積極的に取り組むことで、国際社会の様々なステークホルダーからの要請に応えるとともに、真のグローバルICT企業としての責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。



見直しに関する注意事項

このアニュアルレポートに記載されている内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見直しに関する記述が含まれていません。これらの将来の見直しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます(ただしここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません)。

・主要市場における景気動向(特に日本、欧州、米州、中国を含むアジア)・ハイテク市場における変動性(特に半導体、パソコン、携帯電話など)・為替動向・金利変動・資本市場の動向・価格競争の激化・技術開発競争による市場ポジションの変化・部品調達環境の変化・提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化・不採算プロジェクト発生の可能性・会計方針の変更

富士通は、以下のSRI(社会的責任投資)に関する株価指標に組み入れられています。



Dow Jones Sustainability Indexes
(World, Asia Pacific)



FTSE4Good

FTSE4Good Index Series



eekom research



モーニングスター
社会的責任投資株価指数